

最高レベルのトレード手法をどこよりもわかりやすく！ 小次郎講師のトレーダーズバイブル第 96 回 「ローソク足の基本その 10」



皆さん、こんにちは、小次郎講師です。

こんにちは。助手のムサシです。



本日はローソク足 2 本の型。続き。前回のはらみ線、包み線は実際にどのような場面で発生していたか、ちゃんとチャートで確認したかな？

あ、まだです。確認できていませんでした…



いくら勉強しても復習をしなければ身につかない。勉強したらチャートで即確認する。それが大事。意識してチャートを見ることで、色々な気づきが生まれるだけでなく、実際の場面になった時に、「あっこの型だ！！」と判断できるようになるんだよ。だからしっかりとチャートを見ること！！

わかりました。今日はすぐ確認します。

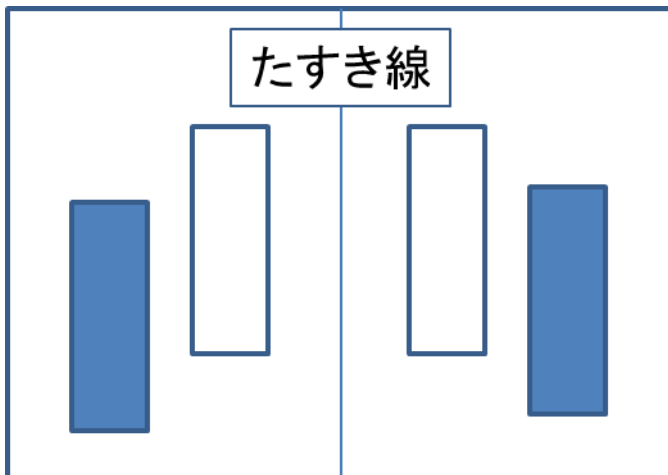


よし、では2本の型の続きを解説していこう。

【1、たすき線とは？】



本日は『たすき線』。前回の線同様、陰線陽線の組合せ。順番はどちらが先でもOK。2本の足の型はこの陰線・陽線の組合せが多い。



前日の線の実体の中に始値があり、前日が陰線であれば、その高値を抜く陽線。前日が陽線であればその安値を抜く陰線。たすきがけに似ているから『たすき線』と言う。

【たすき線】

・陽の『たすき線』

前日が陰線で、翌日、その陰線の実体の中から始まり、終値は前日の高値を超える陽線となる型。

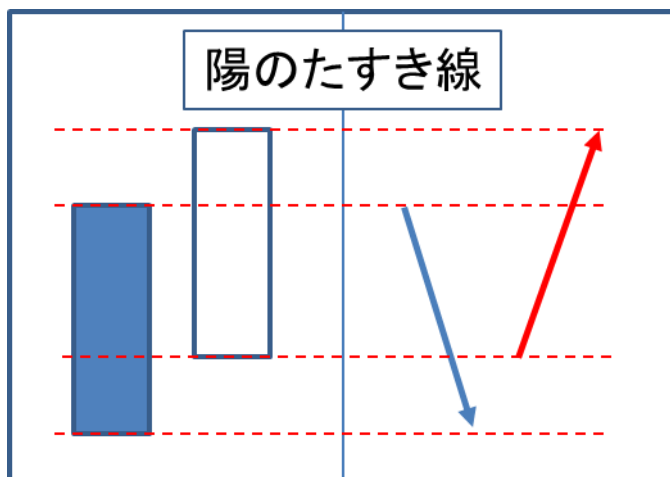
・陰の『たすき線』

前日が陽線で、翌日、その陽線の実体の中から始まり、終値は前日の安値を超える陰線となる型

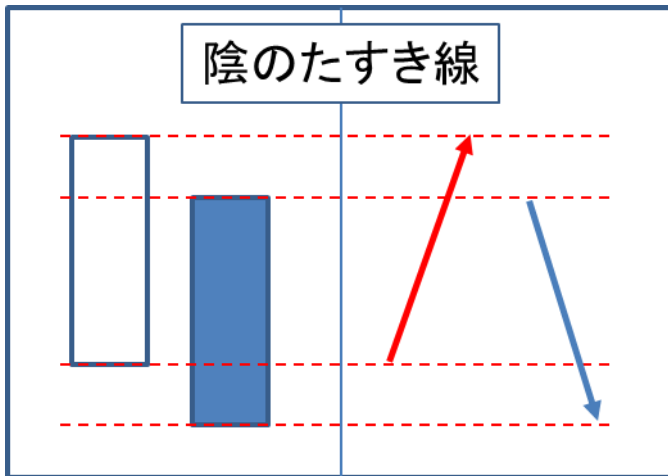
なるほど、陽の『たすき線』は前日の下落ムードを打ち破り、陰の『たすき線』は前日の上昇ムードを打ちこわす感じですね。この型はとてもわかりやすいです。



うむ、実際の値動きを確認してみると、もっと理解がすすむぞ。下図のローソク足を実際の値動きで表してみた。青矢印、赤矢印が実際の値動きを示す。



陽の『たすき線』は前日下がったにも関わらず、翌日はそれ以上に上昇しているところが大きな特徴。ムサシ君の言うように、下落ムードを打ち破るような動きとなるんだ。



陰の『たすき線』は前日上がったにも関わらず、翌日はそれ以上に下落しているというのが特徴。上昇ムードが一旦打ち消されてしまうね。

なるほど、実際の動きを思い浮かべるとよりわかりやすいですね。ローソク足を見た時の感覚が間違っていなかったと、しっかり理解できました。



【2、たすき線の不思議】



この『たすき線』、いろいろな解釈がされており、「前日までの流れを打ち壊し、反転の兆し」と解説している書籍と、「陽のたすき線は売り場、陰のたすき線は買い場」と逆の説明をしている書籍が存在するんだ。

なんと、『たすき線』にはふたつの解釈があるわけですね。けど、これって真逆の解釈ですよ。なんでこのような解釈が生まれたんですか？





いい質問だね。以前にも説明したように、ローソク足は常に出現位置によって解釈が違ってくる。天井圏で出るのが、底値圏で出るのが、トレンドの途中で出るのが、はたまたみあい相場で出るのが・・・あまり固定的な解釈をしていると逆に失敗してしまう。様々な書籍の中では例題として取り上げられる位置が違うため解釈も異なってくるんだよ。柔軟な発想をもって、『たすき線』がどんなときに売り場になり、どんなときに買い場になるのかを考えて見るのも非常に勉強になる。

なるほど。でも、天井圏で出た『陰のたすき線』は売り場、底値圏で出た『陽のたすき線』は買い場、これは変わらないと思うのですが、合っていますか？



うむ、その解釈は正しいと思うぞ。



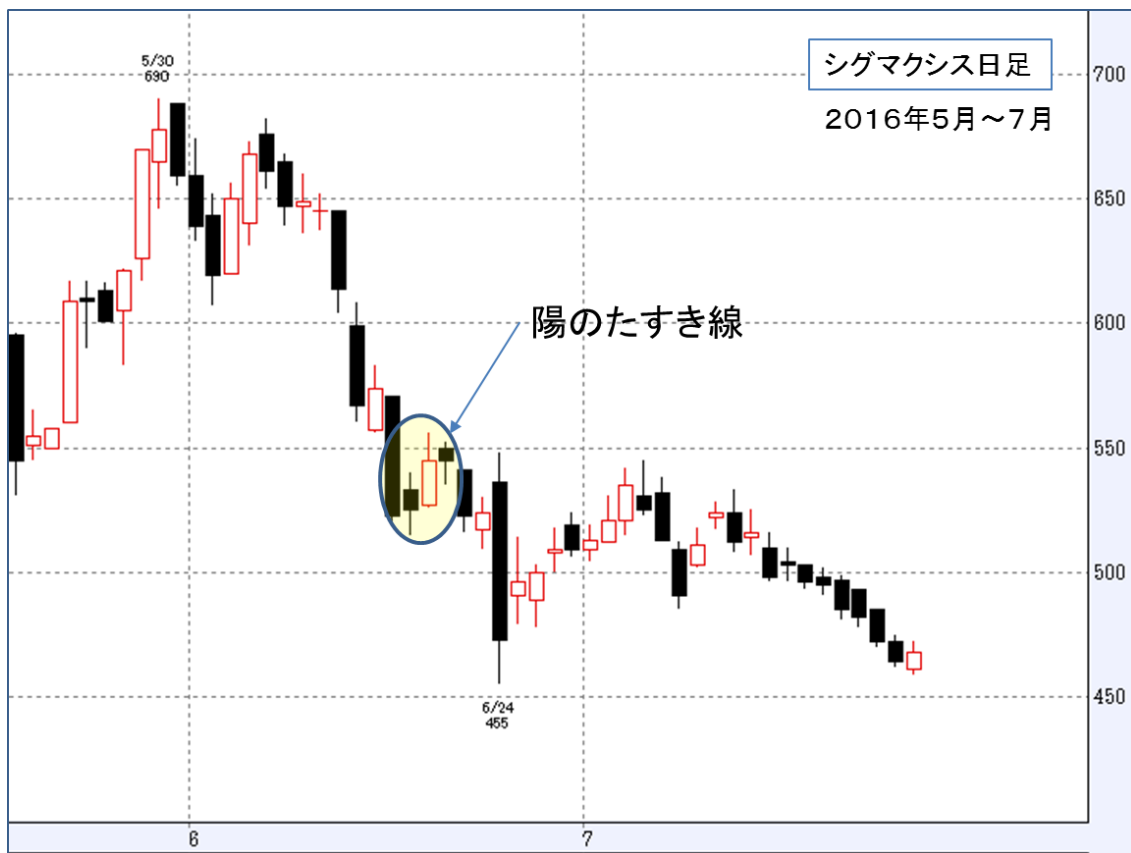


上図は日経平均の日足チャートだが、天井圏で出た『陰のたすき線』が下降相場の入り口になっているのがわかるし、底値圏で出た陽の『たすき線』が上昇相場の入り口になっているのがわかる。相場の転換点で発生する『たすき線』の解釈は非常にわかりやすいし、重要だ。

すると逆の解釈をするのはどんなケースがあるんですか？



上昇相場の途中で『陰のたすき線』が出たケース、下降相場の途中で『陽のたすき線』が出たケースだ。





上図は【6088 シグマクス】の日足チャートになる。下降相場の途中で『陽のたすき線』が出た典型的なケースだ。下降相場の一時的な戻しでこの形がよく出てくる。だが、これを買相場と勘違いしてはいけないというのがたすき線の戒め。

なるほど、下降相場の一時的戻しで『陽のたすき線』が出現するんですね。では逆に上昇相場の一時的押しで『陰のたすき線』が出現するわけですね。



そういうこと。ということで、陰の『たすき線』を買相場、陽のたすき線を『売り相場』と単純に明言してしまうのは私はちょっと気が引ける。私流に言うと、上昇相場の途中で『陰のたすき線』が出ても、そこを売り相場と思っはいけない。そこからまだまだ上がっていく相場があることに注意せよということ。

ということは、下降相場の途中で『陽のたすき線』が出ると、そこを買相場と勘違いしてはいけないということですね。そこからまだまだ下がって行く相場があると。



そういうこと。そういう解釈をする方が誤解をしなくてすむ。相場の天底というのは後になってみないとわからない、この『たすき線』も転換点で出やすい型の一つではあるが、マーケット動向、相場の強さなど諸々を総合的に分析できる柔軟な発想が必要となる。この型がでたからといって即座に飛びつくのは注意した方がいいだろう。

うーん、確かにそうですね。天底でマーケットに参入できると大きな利益を狙えますが、それが一時的な押し場面だったりすると、なかなか難しい展開になってしまうかもしれませぬ。『たすき線』も奥が深いです。





色々考える事は良いことだ。本日のポイントは、出現位置によってローソク足の型は意味が大きく変わること。そこを理解せよ。

わかりました。チャートですぐ確認します。

どんなところで、『たすき線』が出ていて、その後どんな展開になっているのか、とても興味がありますので、色々なチャートを見てみます！！



よろしい、いい心がけだ。ということで、本日はここまで。

ありがとうございました。



□続きはまた次回。

起立・礼

